

## ピアサポーター特集号…

ワン・オールの仕事のひとつに「障がい当事者による相談支援活動の支援業務」があります。1年前に全委託相談支援事業所を訪問させていただいた時には、現状のピアサポーター事業の整理が必要等のご意見をいただいていた。

この分野の仕事として、ピアサポーター自身からの希望で平成25年4月からはじまった『ピアサポーター交流会』に事務局的に参加し、ピアサポーターみなさんの生の声を伺ってきています。この交流会は、ほぼ2か月に1回開かれており、12月18日で通算12回目になります。この他にも、自主的な学習会のための実行委員会も開かれており、5事業所に配置されたピアサポーターさんの交流は随分と進んできていると感じています。

これらと別に『ピアサポーター配置事業所意見交換会』として、ピアサポーターが配置されている5事業所（あさかげ、すきっぷ、ほくほく、ほぼ、ほらりす）に集まってお話し、事業や活動の実情把握、課題の検討を行ってきています。通算4回目になる12月の集まりでは、仕組みの見直しも視野に入れながら毎月の実績報告事項の検討等を行うことになっています。

この度、「ワン・オール プレス」の【ピア特集号】をお届けします。ピアサポーターの活動などを紹介したいと考えています。まずは、昨年7月からワン・オールのピアサポーターとして活動してくれている三島さんからレポートです。今後も、随時【ピア特集号】を発行しますので、どうぞよろしくお願いいたします。（oku）

## リカバリー全国フォーラム報告

8月29・30日、東京池袋にて「リカバリー全国フォーラム」が行われました。5回目となる今年は「リカバリー志向サービスへの転換～当事者参加による社会的意識決定 PART2」というサブタイトルで、行政のサービス決定に当事者がいかにして参加していくかを軸に発表等が行われました。

### ●特別記念講演

講演をしてくださったのは、ニューヨークのユミコ・イクタ氏。障害の当事者かつ、市の健康・精神衛生部リハビリテーションプログラムを管理・監督する立場です。会社が「この仕事ができる当事者を雇いたい」ということでイクタ氏が採用されたとのこと。さすがはニューヨークですね！



ニューヨーク市では、「ピアスペシャリスト」（自分の経験を用いて仲間のリカバリーを助ける訓練された当事者）が活躍しており、その数、市では250名以上、州全体では約1000名。正式な研修や年次大会があり、ニューヨーク市では5億円の予算がついているそうです。ピアスペシャリストは、例えば入院した若者が自分の選んだ地域にスムーズに戻れるよう

支援したり、パニック発作等で病院に行けない人に家庭的な施設で看護師に代わって対応するといった活躍をしています。

その他、援助付き雇用や、自律的意思決定ケア等の説明をしてくださいました。成果や確かな計画に基づいて物事が進められている点は、なるほどアメリカらしいと感じます。

### ●シンポジウム

第一線で活躍する当事者・家族である4人のシンポジストから、今回のフォーラムのテーマ「当事者参加による社会的意識決定」に関する様々な話が聞けました。印象に残った点をピックアップします。

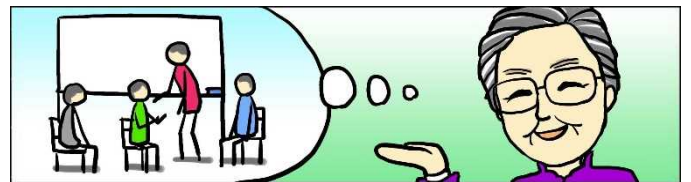
- ・精神障害者の運動は遅れている。もっと意思表示できる当事者が増えていい
- ・意見を磨いて、一般の人に通ることを言わなければならない
- ・家族は当事者とともにもっと学び、問題意識を持つ
- ・地域・社会にもわかってもらえる。なぜなら4人に1人は精神疾患を抱えている
- ・自分の置かれた状態を肯定的に受け止める。批判・攻撃しても仕方ない
- ・今はピアスタッフが人気だが、将来は精神障害者がどんな職にでも就けるように
- ・私たちは支援されるだけの存在ではない

## ピア定山溪研修報告

10月1日～3日、「こころのリカバリー総合支援センター」主催の定山溪研修が行われました。年に一度、全道のピアサポーターが集まる3日間の研修です。大きな学びの場であると共に、以前参加した人にとっては旧交を温める機会でもあります。

今回の山場は何と言っても、日本のSSTの第一人者、前田ケイ先生によるSSTの実演です。好きなコインを並べて日頃の人との関わりを描き、それをどうして行きたいかを聞く「コインマップ」に始まり、そこから「じゃあそうするためには何を練習しようか？」とスムーズにSSTへとつながる様子が実にあざやか。本人の希望→そのために獲得したいスキル→SSTで練習、という流れです。施設でプログラムとして行われるSSTは、困りごと探しから始まったり、あらかじめ用意されたお題から選んで練習を行ったりしますが、今回見たのは本人の希望に寄り添った「希望志向」の生きたSSTでした。

集まったピアサポーターからの悩みを、SSTばかりでなく、サイコドラマも使って次々に実演する前田先生。そうしながらも、「正のフィードバックをする、ただしどう良かったは他の人に言ってもらおう」等リーダーが気をつけるべき点や、「自信のない人には後ろから『いいいいいよ！』とささやく」等参加する一人一人の能力に合わせてやり方を変えるといった、SSTのキモを伝授してくださいました。



83歳にしてかくしゃくとしていらっしゃる前田先生ですが、最後の「対象者が亡くなった時にどう受け止めればいいのか」という問いには、亡くなった方を偲んで涙する場面も…。人の支援をするには、自分の人生を豊かに暮らすことも大切なのだろうな、と感じました。

最終日の「収穫の樹」には、この3日間の研修で得られたものを、一人一言の「実」として貼って行きました。定山溪研修、今年も豊作でした！（mis）

## 今後のワン・オールプレス

今回は、通常のワン・オールプレスの特別版を発行いたしました。次回は、通常版を2015年1月に発行予定です。今後も、ピアサポーターの活動を報告、発信していきます。また、その他の動きについても、注目し、発信していく予定です。今後とも、よろしくお願いいたします。（nis）

中でも興味深かったのが、「病棟転換型居住系施設」の検討会についての話。病棟転換型居住系施設とは、病棟の一部をグループホーム等にして、病院の敷地内に「退院」させることができる、というものです。「それは本当に退院と言えるのか？」「病院側の経営のためだけの策では？」といった疑問の声が上がっています。

厚生労働省で検討した際に当事者として出席した澤田さんによると、出席した25人中、当事者は2人、家族は1人のみ。当事者・家族の提言は無視され、多数決で賛成派に押し切られた。これでは「当事者を参加させた」と言いたいがためだけの「アライバイ作り」にすぎない…。その通りだと感じました。

当事者が声を上げて行かなければ、このような事態が繰り返されてしまうのでしょうか…？



## ●分科会

2日間にわたるリカバリー全国フォーラムの中で、様々なテーマでの分科会（その数なんと22個！）が行われました。ここでは、私が出席した『ピアスタッフの今とこれから』についての報告をさせていただきます。

まず、ピアスタッフとして働く3名による発表。グループホームでの服薬管理や安全確認といったピア性を活かさない仕事の仕方になってしまうこと、コミュニケーションに障害がある中での健常者スタッフとの人間関係、雇用者側の「ピアにはこの仕事は任せられない」という気遣い（？）等、様々な矛盾や疑問が挙がりました。精神障害者がピアとして働くのは一筋縄ではいかないことが、改めてわかります。

一方で、支援する人かつ支援される人であるピアスタッフは世の中がリカバリー志向に変わっていく中でのキーパーソンである、「支援する一される」の固定された人間関係ではなくお互いに多面性を活かすべき、等、「これから」に関する希望の見える話も聞くことができました。また、まだ正式な資格ではなく予算がついていないものの、「ピアサポート専門員」にも期待が寄せられていました。（一方で、ピアが資格化すると利用者との距離ができてしまう、という意見も出ていました。）

それにしても、長年ピアスタッフを勤めている人からも「ピアスタッフとは何ぞや？」という疑問が出るところを見ると、「ピアとは何ぞや？」は永遠の課題なのでしょうね…。

\* 長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会

→<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syougai.html?tid=141270>